

## 早稲田大学 法学部 国語 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古文1問、漢文1問、現代文2問)
難易度	昨年よりやや易化

## 〔大問別講評〕

## (一) 古文。戸田茂睡『紫の一本』。

《本文字数:約 650 字＝昨年より約 100 字減少。設問数:7＝昨年より 1 問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【空欄補充】前行の和歌を解釈する。希望の終助詞「ばや」に着目する。
問二	標準	【空欄補充】空欄を含む一文は「これを本歌にして一首詠んで差し上げよう」の意。消去法が有効である。
問三	標準	【空欄補充】後の「馬をよみ入れたり」「隠し題」がヒント。
問四	標準	【傍線部理解】次行で陶々斎が「隠し題をそんなに自慢なさるな」と言っていることもヒントになる。
問五	標準	【空欄補充】8行目の陶々斎の歌の本歌(6行目)もヒントになる。
問六	やや難	【空欄補充】3行前の「とても…よまむ」をふまえて、各選択肢を解釈する。
問七	標準	【内容合致】口は「対抗心」「とかく意見が対立しがち」が不適切。陶々斎と遺佚は冗談を交えながら楽しんで歌を作り合っている。

## (二) 漢文。出典:徐度『却掃編』。

《本文字数:202 字＝昨年より 24 字増加。設問数:4＝昨年より 1 問減少。》

小問	難易度	コメント
問八	標準	【返り点】読みが示されているので難しくはない。二字の熟語に返るパターン。
問九	標準	【傍線部理解】比較形。「A莫若B」のBが代詞なので倒置され、「A莫B若」になっている。
問十	標準	【語の理解】「すぐれているさま」の意の「逸」を含む語を選ぶ。
問十一	標準	【内容合致】司馬光に対する范公の考えを正確に読み取れたか。

(三) 評論文。「技術と人間の相互性」について。

出典：直江清隆『技術観のゆらぎと技術をめぐる倫理』。

《本文字数：約 3900 字＝昨年より約 600 字減少。設問数：8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十二	標準	【漢字書き取り】A＝「所与」、B＝「多岐」。いずれも正確に書きたい。
問十三	易	【接続語・空欄補充】いずれも前後関係から容易に判断できる。
問十四	やや難	【空欄補充】前からの二つの段落内容から判断する。キーボードの例は、人間が「人工物を『介して』」(＝5行目)世界と関係する例である。人間は「道具」という人工物にいわば「囲まれている」状況を説明している選択肢を選ぶ。
問十五	標準	【空欄補充】同段落では、機械も人間の手による補完が必要であることが述べられている。機械も人間も自律的ではない、という主張を捉える。
問十六	標準	【傍線部説明】直前2行の内容から判断する。消去法も有効だろう。
問十七	標準	【傍線部説明】同段落の内容、特に直前の「人工物の設計の～価値に配慮する」から判断する。消去法が有効。
問十八	標準	【傍線部理解】傍線部Xの前段落からYを含む段落までの内容から判断する。「中立性」への批判と、「政治性」という語の文脈での意味を捉える。
問十九	標準	【趣旨理解】傍線部5の「人と人との関係」とは、「設計者と使用者との関係」であることをつかむ。イは「その要望～あってこそ」が、ロは「歴史の審判を待たねばならず」が、ハは「第三者～認定されることで」が、ニは「設計者の責任～範疇であり」が、それぞれ不適切。

(四) 評論文。「ケアの倫理」について。

出典：岡野八代『フェミニズムの政治学』。

《本文字数：約 3600 字＝昨年より約 900 字減少。設問数：6＝昨年より1問増加。》

小問	難易度	コメント
問二十	標準	【傍線部説明】傍線部1を含む段落内容から判断できる。イは「力の並行関係」が、ホは「力の対称性」が、それぞれ不適切。
問二十一	やや難	【理由説明】前からの二つの段落内容と選択肢を詳細に照合する。ニは「平和こそ～経験してきた」が、ホは「その社会化は～」以下が、それぞれ明らかに誤り。ロは「その矛盾を批判する」が不適切。ハは『「非一暴力」～定義される」が「女性たち」を修飾している点が不適切である。
問二十二	やや難	【傍線部理解】傍線部3の前段落から傍線部4を含む段落までの内容と選択肢を詳細に照合する。「母的思考」が「具体的な現状」(＝40行目)に基づくものであることとの対比である。イがたいへん紛らわしいが、「身体」の記述がなく、「放棄する」という表現が不適切である。
問二十三	やや難	【傍線部理解】傍線部4を含む段落と次段落の内容と選択肢を詳細に照合する。ロは後半の主語が「女性たちが」と限定されている点が不適切。ホは「にもかかわらず」という逆接が不適切である。
問二十四	やや難	【傍線部理解】傍線部5を含む段落以下の四つの段落の内容と選択肢を詳細に照合する。イがたいへん紛らわしいが、「交渉の場」への「参加」までではニの「加害責任をも追及する」と比べて不足である。
問二十五	難	【記述】傍線部6は末尾から3段落目に「断ち切られた～共同体の再建」と言い換えられている。これが答えの末尾になるようにまとめるとよい。必要な内容は、①ケアの倫理(＝暴力の禁止・他者との軋轢)、②ハイデガーの平和、③母的思考(＝具体性・実践知)、④自律的主体(＝抽象性)批判、⑤家族を超えた、である。書くべき要素が多く、まとめるのが大変難しい設問である。

## 〔総合コメント・今後の指針〕

全体的に昨年よりやや易化した。ただし、大問四が相当難しく、時間内に解き終わらなかった受験生も多かっただろう。大問一から大問三でどれだけ得点できたか。

大問一は、『紫の一本』。昨年より易化した。「本歌取り」「隠し題」といった和歌の修辞法に習熟していれば高得点がとれただろう。

大問二は、『却掃編』。昨年より易化した。昨年同様、語の理解に重点をおく設問も出題されていた。ふだんから漢文の学習を地道にしておく必要がある。

大問三は、「技術と人間の相互性」についての評論文。昨年よりやや易化した。標準レベルの設問がほとんどなので、しっかり得点しておきたい。

大問四は、「ケアの倫理」についての評論文。昨年より大きく難化した。15年の大問三を彷彿とさせる難しさだった。頻出テーマからの出題ではあるものの、文章の抽象度が高く、加えて、本文と選択肢を丁寧に照合しないと正解が出せないため、かなりの時間がかかる。試験時間を考えると、時間に追われてこの大問が雑になっても仕方ないだろう。問二十五は本学部特有の論述問題だが、〈本文全体をまとめさせるタイプ〉だった。同タイプは13・14・15・17年にも出題されている。